

AI活用時代だからこそ大事にしたい 『ソフトウェア品質保証の極意』の普及

【チーム4】

小島 嘉津江	1FINITY株式会社
鎌倉 洋一	源氏企画(元富士通株式会社)
川田 葉子	元株式会社構造計画研究所
北村 弘	
藤川 昌彦	アズビル株式会社
松波 知典	SOMPOシステムズ株式会社

本日お伝えしたいこと

書籍『**ソフトウェア品質保証の極意**』（以降、本書籍）
発刊後の普及活動を報告します

1. 本書籍に込めた私たちのこだわり
2. 前期までの活動：出版社との議論を重ね遂に発刊
3. 今期の活動目的：本書籍がソフトウェア品質向上の一助となる
4. 今期の活動と結果：一人でも多くの方に手にとっていただく普及活動
5. 活動の成果と今後：読者のみなさんの現場で使っていただくために



1. 本書籍に込めた私たちのこだわり (1/3)

ソフトウェア品質保証の『肝』から『極意』へ

各社の品質保証部長の知恵と経験を持ち寄り『肝』を作成・公開

ソフトウェア品質保証の肝
～ソフトウェア品質保証活動に潜む
悩みの取り払う108つの肝～

8年を経て44個の『極意』として書籍化

ソフトウェア品質保証の極意
～経験者が語る、
組織を強く進化させる勘所～

テーマ分類 活動期		× × × : 検討テーマ						Q A : 品質保証		C X : 顧客体感	
		QA進化	経営視点	品質の勘所	品質技術	技術的環境変化	人材・意識				
1期				QAの悩み 品質保証の肝	各社の取組み						
2期	QA進化論				上流工程						
3期					レビュー				達人の育成		
4期		経営視点			超上流工程				QAミッション		
5期					設計工程	アジャイル			人材育成		
6期	QA進化論										
7期	品質成熟度					セキュリティ	IoT時代の品質	サービス品質	品質事故原因	品質意識	
8期		品質戦略								品質意識測定	
9期		QA価値向上			品質分析			人材育成			
10期		価値創造			QAの質向上	アジャイル	AIシステムの品質				
11期		DX時代の品質保証						QA人材の育成	腹落ちする品質意識		
12期				QA業務の自動化							
13期	QAの在り方	顧客提供価値		レビュー							
14期				品質の可視化	サービス品質	C X 品質を実現する人材育成	品質保証の極意 書籍化				

1. 本書籍に込めた私たちのこだわり (2/3)

肝・・・ソフトウェア品質保証の仕組みを効果的に運用する知見

◆ 1カード/ 1肝の構成で悩み解決

- 肝
- 背景/悩み
- 肝の説明/悩み解決のヒント
- 格言

◆体系的に整理

- SQuBOK Guide
第2章 ソフトウェア品質マネジメント
の樹形図をベースに体系化
- P/D/C/AとPM/QAでターゲットを識別

2.1 ソフトウェア品質マネジメントシステムの構築と運用①



【肝001】QMS構築は組織の責任分担を明確にする

【背景／悩み】

- ・ 新しく品質保証機能（QMS：Quality Management System）を立ち上げるためにはどのように考えればよいのか。

【肝の説明／解決のヒント】

- ・ SEPG（Software Engineering Process Group）、SQAG（Software Quality Assurance Group）、PMO（Project Management Office）などの組織と実際のプロジェクト間でフィードバックし合える役割分担を設定する。
- ・ 通常のプロジェクトは納期と予算の制約があるため、プロジェクト内の品質管理だけでは組織としての品質保証を行うには無理がある。
- ・ プロセス改善のためのSEPGと、第3者監査を行うSQAG、そして、ガバナンスを強化するPMOの設置が必要である。
そして、3つの組織がお互いをフィードバックしあう関係を構築する必要がある。



プロジェクト 組織と連携 機能する

Copyright (C) 2016 SQiPソフトウェア品質保証部長の会 All Rights Reserved

11

SQuBOK Guide：ソフトウェア品質知識体系ガイド

1. 本書籍に込めた私たちのこだわり (3/3)

極意・・・組織を強く進化させる勘所

◆見開き偶数ページ/ 1 極意で悩み解決

◆こだわり 1 : 納得感を高める

- 普遍的な肝 = (知見)をブラッシュアップ
- 実践的な解説
- 図表の活用

◆こだわり 2 : 時代の変化にあわせて

- 部長の会の研究成果のTipsを盛り込む
- 新極意を追加 (10個)
- コラムを追加 (23個)

◆こだわり 3 : 体系的に整理

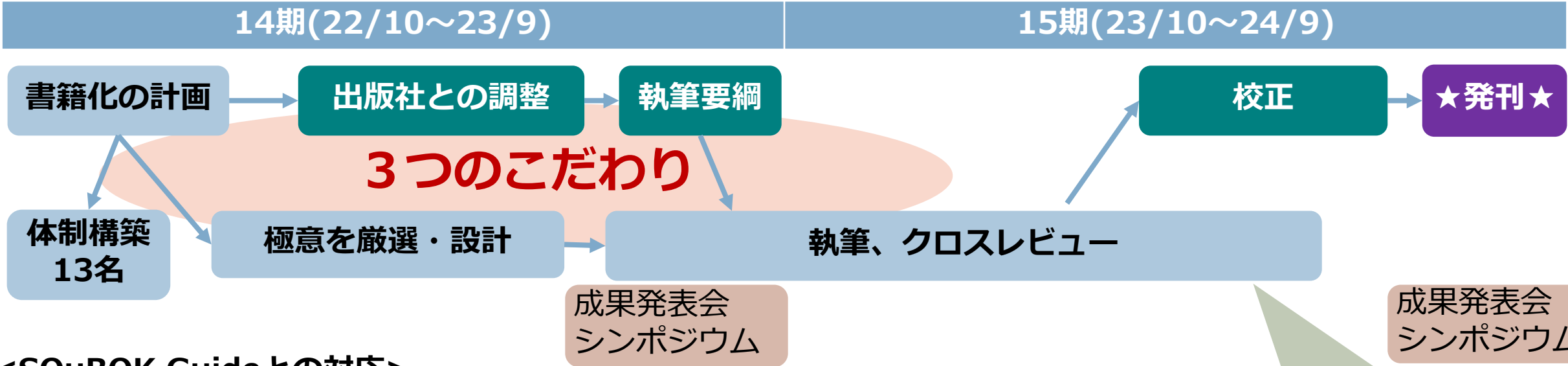
- SQuBOK Guide
 - 第1章 ソフトウェア品質の基本概念
 - 第2章 ソフトウェア品質マネジメントの樹形図をベースに体系化

SQuBOK Guide : ソフトウェア品質知識体系ガイド

投影のみ

2. 前期までの活動

出版社との議論を重ね、遂に 2024年9月に発刊



<SQuBOK Guideとの対応>

SQuBOK Guide 樹形図		本書籍
1章 1.1~1.3	ソフトウェア品質の基本概念	1章 1.1~1.3
2章 2.1~2.7	組織レベルのソフトウェア品質マネジメント	2章 2.1~2.7
2.8~2.12	プロジェクト共通レベルのソフトウェア品質マネジメント	3章 3.1~3.5
2.13~2.21	プロジェクト個別レベルのソフトウェア品質マネジメント	4章 4.1~4.9

プロの会レビュー

- ・企画委員
- ・アドバイザー

識者の方々のご協力

- ・推薦のことば
- ・書籍化に向けて
- ・エンドースメント (帯)

3. 今期の活動目的

本書籍がソフトウェア品質向上の一助となる

■近年のソフトウェア開発をとりまく環境・課題

- AIなどの急速な技術の進歩、短納期化、不確実性
- どのようなアプローチが有効か、どのようにすれば品質保証活動を定着できるか など 現場の悩みは継続



■課題解決として、書籍『ソフトウェア品質保証の極意』を2024年9月に発刊

- 技術の進歩による新しい手法を享受**しつつも、品質保証の**本質を軸に判断**する
- 現場の悩みを解決する**手がかりや羅針盤**を得る

■今期の活動目的：本書籍がソフトウェア品質向上の一助となる

- ひとりでも多くの方に手に取っていただき、
- ソフトウェア品質の「マインド」や品質保証活動の「変わらない本質」を再認識し、
- さらに、自らの経験を加味した新たな「極意」を生み出す

4. 今期の活動と結果

本書籍をひとりでも多くの方に手に取っていただくために

以下を目標に普及活動を実施

- 販売数：初年度500部以上
- 品質マネジメントの本質を再認識し新たな極意を発掘する『場』を創出

●：実施済、○：実施予定

『場』の 創出活動	目的	2024年			2025年								
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 出前研修	個別の事情に対応した普及活動		●	今期の活動方針議論									
2. 講演会など	書籍を広く知ってもらう活動					準備		● 講演会		成果発表会			○
3. 勉強会	課題感を持った参加者と議論し 本質の再認識と極意の深掘り/発掘						準備		●	●	●	○	
4. その他の活動	各種学協会への働きかけ		●								●	○	

4.1 出前研修 ～個別の事情に対応～

『品質保証の極意』をぜひ読みたいなど 好評価（追加購入希望）

■プロの会メンバの会社の品質責任者からご要望を受けミニ講演（2024年11月）

- 要望：『ソフトウェア品質保証の極意』を社内教育に使用するにあたり、**「品質保証の重要性」**を伝えて欲しい
- 講演：「品質保証レベルを引き上げるために必要な考え方（概念）」（執筆者が講師）
- 参加：主に品質・開発チームのリーダー層（6名が対面、約50名がリモート）
- 受講者アンケートから：
 - 品質保証の内容や重要性の理解につながった
 - 日々の業務に活用したい品質保証の観点・考え方などがわかった
 - 実際に本を読んで品質に対しての理解を深めていきたいと感じた
 - ユーザー視点の重要性、また、その視点は様々であることを改めて再認識した



30分と短い時間であったが、もっと詳しく聞きたかった、など好評価

4.2 講演会（1/2） ～広く知ってもらおう～

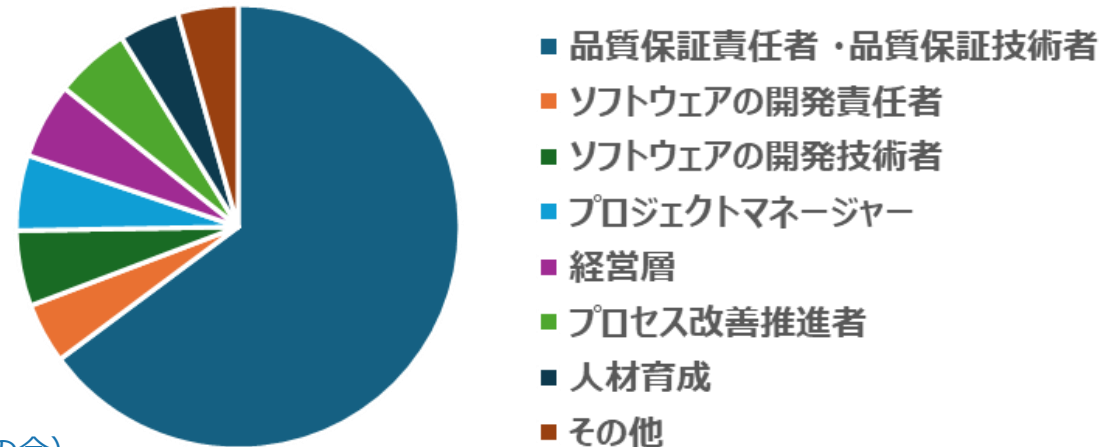
177社もの方からお申込み！ QA関係者の参加が全体の約 7 割

- **タイトル** **ソフトウェア品質保証の極意
品質保証部門長が伝える「肝」「勘所」とは？**
- **主催** 一般財団法人日本科学技術連盟
ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会
- **開催日時** 2025年4月22日 18:00～19:15
- **開催形態** Zoomオンライン
- **申込数** 283名（**177社**）
- **参加数** 183名
- **アンケート
回答数** 91名



講演会の発表者

参加者属性



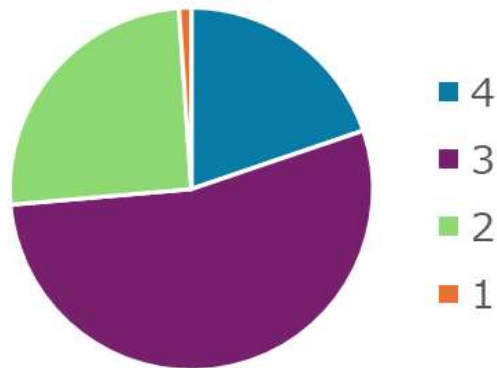
[ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会（旧ソフトウェア品質保証部長の会）](#)
[／日科技連](#)[ソフトウェア品質](#)[SQiP研究会](#)

4.2 講演会 (2/2) ～広く知ってもらおう～

達成度平均は2.92

- ・全体的に達成度が高く、『書籍の狙い、概要、使い方を理解できた』という評価が多い
- ・無料講演（時間の制約、ネタバレ回避）ということもあり、低評価につながるコメントあり
 - ・講演時間をもう少しほしかった
 - ・極意の内容などに踏み込んでほしかった
- ・書籍購入の意思を示した方

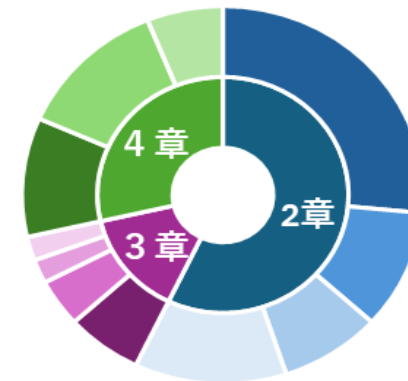
達成度(低1---4高)



現場の悩みは、『組織レベル』が多い

- ・2章に関連すると思われる悩みが約6割
特に人材育成に関するものが全体の約1/4と多い
- ・3章は、QCDのバランスや、プロジェクトマネジメントが主
- ・4章は、品質分析・見える化や品質保証範囲の悩みが多く、工程別の品質技術としてレビューやテストがあった

悩みと極意の章とマッピング



ソフトウェア品質マネジメントを
以下の3つのレベルに分けて章を構成
2章：組織レベル
3章：プロジェクト共通レベル
4章：プロジェクト個別レベル

- | | | | |
|------------|---------------|---------------|-------------|
| ■ 2章-人材育成 | ■ 2章-組織運営 | ■ 2章-意識/文化 | ■ 2章-プロセス改善 |
| ■ 3章-QCD | ■ 3章-プロジェクト管理 | ■ 3章-PKG利用 | ■ 3章-構成管理 |
| ■ 4章-管理・分析 | ■ 4章-品質保証 | ■ 4章-レビュー・テスト | |

4.3 勉強会（1/4）～極意の深掘り・発掘～

参加者が議論したいテーマを掘り下げる

- 参加者募集 参加希望者から、**議論したい極意やテーマを募集**
- 実施形態 Zoomオンライン、1時間
- 勉強会進行 ①アイスブレイク（アンケート、自己紹介）
②**極意に関する議論 ～悩みを解決するために～**
 - 極意にある『ヒント』をやってみたか？ できそうか？
 - 他にやってみたことはあるか？ どんな点を考慮しているか？ など

回	開催日	テーマ	議論対象の極意
第1回	2025/5/21	第2章	極意11（2.6 教育および育成のマネジメント） 極意06（2.4 検査のマネジメント）
第2回	2025/6/18	第3章	極意16（3.1 意思決定のマネジメント） 極意22（3.4 構成管理）
第3回	2025/7/16	第4章	極意39（4.7 品質分析及び評価のマネジメント） 極意27（4.2 要求分析のマネジメント）
第4回	2025/8/20	検討中	

4.3 勉強会（2/4） <第1回：2章(組織レベル)>

自身の考えの整理と新たな視点を得ることができた

議論極意	選定理由
極意11（自ら考える機会を与えてこそ人は育つ）	4/22の講演会アンケートで人材育成に関する「現場の課題」が多かったため
極意06（時代の変化に合わせて、検査自身も変わる）	参加者からの希望

参加者		参加目的 達成度平均
品質保証責任者	—	2.7 (低 1 — 4高)
品質保証技術者	4 名	
ソフトウェアの開発責任者	2 名	運営への評価 平均 2.9 (低 1 — 4高)
プロジェクトマネージャー	1 名	
経営層	1 名	
プロの会(チーム4メンバ除く)	3 名	

■参加者の気づき

- 色々な会社の色々な立場の人と、同じテーマに対して話しをすることで、**自身の考えの整理と、新たな視点を得ることが出来た**

■我々の気づき

- 「フロントローディング」や「伴走型」などが言われているが、品質保証部門の立ち位置や関わり方は、対象とする製品やシステムによって「門番型」が優先される場合もある、と感じた
- **参加者にもっと発言してもらおうようにすれば良かった**

4.3 勉強会（3/4） <第2回：3章(プロジェクト共通レベル)>

勉強会や議論の場の作り方の参考になった

議論極意	選定理由
極意16（課題の状態観測と優先度付けにより問題発生を予防）	参加者からの希望
極意22（トレースビリティの確保は、まずは、V字の両端から始める）	参加者からの希望

参加者		参加目的 達成度平均	■参加者の気づき		
品質保証責任者	1名	3.5 (低1—4高)		・ 実例や考え方に加え、教育的なレベルでの知見も得ることができ、これからの活動に活用できると考える ・ 勉強会や議論の場の作り方の参考になった	
品質保証技術者	2名				
ソフトウェアの開発責任者	1名	運営への評価 平均	■我々の気づき		
プロジェクトマネージャー	1名			3.3 (低1—4高)	・ 参加者が議論したい極意を対象にしたこと、参加者の発言をその場で画面共有できるよう書記を設置したことにより、参加者の積極的な発言が増えた ・ SQuBOKの別箇所で紹介している手法を引用してご意見下さった方がいて、技術的な知見や議論が深まった ・ “極意の発掘”に繋がる意見があったのはよかった
経営層	1名				
プロの会(チーム4メンバ除く)	3名				

4.3 勉強会（4/4） <第3回：4章(プロジェクト個別レベル)>

議論極意	選定理由
極意39（品質向上には、計測と評価が必要）	参加者からの希望
極意27（「真の要求」は顧客要求の先の業務にある）	参加者からの希望

参加者		参加目的 達成度平均	■参加者の気づき	
品質保証責任者	1名	(低1ー4高)		
品質保証技術者	4名			
ソフトウェアの開発技術者	1名	運営への評価 平均	■我々の気づき 集計中	
プロジェクトマネージャー	2名			
経営層	1名	(低1ー4高)		
プロの会(チーム4メンバ除く)	3名			

■第4回の予告■（2025年7月30日頃に参加者募集開始予定）

- ・2025年8月20日(水) 19:00～20:00（オンライン）
- ・議論対象の極意：4/22の講演会アンケート『現場の悩み』に該当する極意で多いもの、第3回までの勉強会で取り上げていない節から極意を選択予定<選定中>

4.4 その他の活動 ～国内外での紹介～

品質マネジメントは日本の強みの一つ と海外では評価

■ 国内 ■

- 2024年開催の『**POWER UPソリューションフェア（ユーオス関東）**』におけるプレゼンテーションにて、出典として紹介された
<https://uos.jp/kantou2024/>

■ 海外 ■

- スイス：
国際連合の専門機関・国際電気通信連合（ITU）主催『**AI for Good Global Summit 2025**』における登壇者紹介欄やネットワーキングで本書籍が取り上げられた（**169か国、11,000名**）
[Speakers - AI for Good](#)
- ドイツ：
2nd International Conference on Auditing and Artificial Intelligence – 2025
(August 20th – 22nd, 2025- University of Duisburg-Essen in Duisburg, Germany) でのプレゼンで引用紹介される予定
[2nd International Conference on Auditing and Artificial Intelligence - 2025](#)

5. 活動の成果と今後 (1/2)

＜再掲＞ 以下を目標に普及活動を実施

- 販売数：初年度500部以上
- 品質マネジメントの本質を再認識し新たな極意を発掘する『場』を創出

2025年3月：6か月目に約750部 目標クリア！
2025年7月：10か月目に約950部 8月に重版決定！



- 出版社が、需要や市場の反応をみて重版を決定してくださいました！
- 何より、多くのみなさまに本書を手にとっていただけたことに感謝いたします。

5. 活動の成果と今後 (2/2)

読者のみなさんの現場で活用いただけるために

- 出前研修、講演会、勉強会など、品質マネジメントの本質を再認識し、知見を交流できる『場』創りができ、参加者から高評価を得た
- さらなる取り組みとして

◆ 品質保証の現場の悩みを受けて 極意を拡充

講演会の参加者アンケートの「品質に関する現場の悩み」の悩みの順位

- ① プロセスや仕組みを定着させて回し続ける難しさ
- ② スキルの継承・若手／PM 育成・経験知の活用
- ③ スピード開発や生成 AI 時代での 品質保証のあり方

◆ 読者のみなさんの現場で使える 書籍の活用事例 の紹介と普及

動画コンテンツ、ディスカッション、「ものがたり」でケーススタディ、機関紙へコラム掲載 など

今後も、ソフトウェア品質向上の一助となるように
『ソフトウェア品質保証の極意』の普及、『極意』の充実、
海外への普及も進めたい！

「ソフトウェア品質保証の極意」 特別割引販売のご案内

本日の講演会にご参加いただいた皆さまは、
10%引きでご購入いただけます！

特別割引価格（税込）：3,300円⇒2,970円

【特別割引のお申し込み方法】

「参加者様向け 特別割引・購入申込書」をダウンロードして、
オーム社直販宛てに、直接ご注文ください。

▼お申込書のダウンロードは、こちらから

[成果発表会「ソフトウェア品質保証の極意」割引チラシ](#)

【ご注意】書店・ネット販売では、特別割引は適用されません。



ご清聴 ありがとうございました

ソフトウェア品質保証の極意
経験者が語る、組織を強く進化させる勘所



著者 : 日科技連ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会 編
定価 : 3,300円 (本体3,000円+税)
判型 : A5
頁 : 216頁
ISBN : 978-4-274-23230-5
発売日 : 2024/09/18
発行元 : オーム社

● 紙の書籍を買う



● 電子書籍を買う

